

令和8年 稲作情報 第5号

令和8年7月24日発行 宮城県亘理農業改良普及センター

電話 0223(34)1141 FAX0223(34)1143 ホームページ <http://www.pref.miyagi.jp/site/wrnk/>

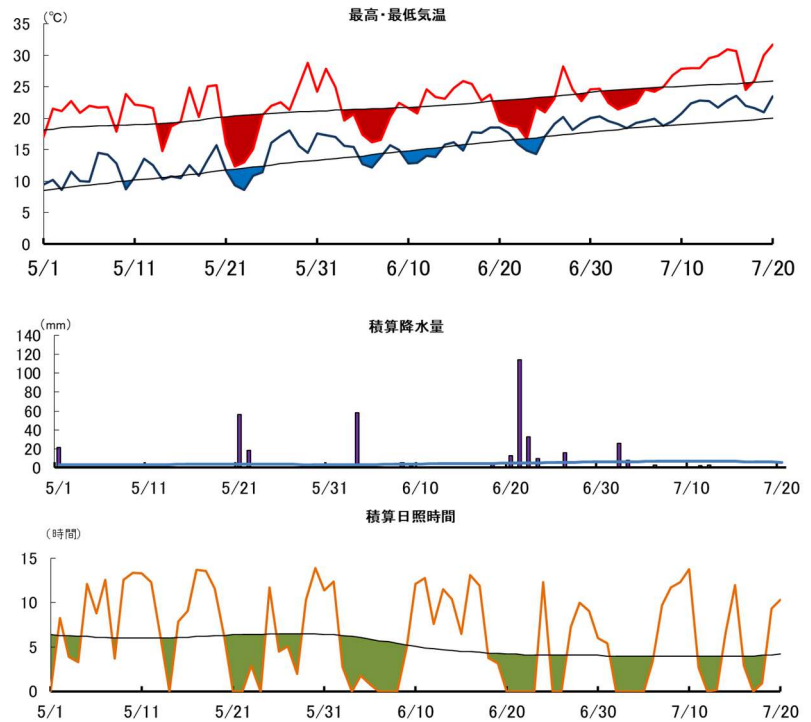
【気象経過】

(7月)

7月中旬は、気温は高く経過したもの、日照時間は、多い日と少ない日が周期的に現れました。期間の平均気温は25.2℃(平年差+3.0℃)、日照時間は41.9時間(平年比111%)、積算降水量は7.0mm(平年比11%)でした。

なお、東北地方南部の梅雨明け平年日は7月24日頃です。

観測地点：亘理アメダス



【移植栽培】

1 生育状況

7月21日調査の幼穂長は、「ひとめぼれ」が12.0mmで間もなく減数分裂期を迎えます。「つや姫」の幼穂長は平均で13.0mmですが、ほ場、田植え時期によってばらつきがあります。

NO	品種	調査地点		田植月日	栽植密度 (株/㎡)	7月21日調査		
						葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	名取市	本年値 平年差・比	5月17日 (±0日)	18.5	12.3 -0.1	36.2 -3.1	9.6 -22.2
2	ひとめぼれ	山元町	本年値 平年差・比	5月17日 (±0日)	19.6	12.5 0.2	43.1 1.3	14.4 -7.2
	ひとめぼれ	2ほ場平均	本年値 平年差・比	5月17日 (±0日)	19.1	12.4 0.0	39.7 -0.9	12.0 -14.7
3	つや姫	岩沼市	本年値 平年差・比	5月15日 (±0日)	16.6	12.0 0.0	39.3 3.15	3.4 -0.5
4	つや姫	亘理町	本年値 平年差・比	5月5日 —	18.5	11.7 —	32.9 —	22.6 —
	つや姫	2ほ場平均	本年値 平年差・比	5月10日 —	17.6	11.9 —	36.1 —	13.0 —
5	にじのきらめき	岩沼市	本年値 前年差・比	5月15日 (±0日)	16.6	12.6 0.4	41.5 -1.5	1.5 -0.3

平年値は、No. 1、2、同一ほ場で過去5か年の平均値。No. 3は、前2か年の平均値。No. 4は、今年度から調査。No. 5は、昨年度から調査。

幼穂の長さとお穂までの日数の目安

発育過程		出穂前日数	幼穂長
幼穂形成期	始期	25 日前	1 ～ 2 mm
	終期	23 日前	3mm
減数分裂期	始期	15 日前	3 ～ 4 cm
	終期	10 日前	8 ～ 10 cm

2 今後の管理

(1) 出穂期予想

県内の中生品種の出穂期は 7 月 30 日頃の予想です。

地帯区分別の出穂期予測は下表のとおりです。仙台湾沿岸地帯は、県平均と同じ 7 月 30 日頃の予想です。(令和 8 年産良質米づくり研修会資料)

表 生育ステージ予測(令和8年7月10日現在)

地帯区分	田植盛期	予測日		
		幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
北部平坦	5/12	7/7	7/17	7/30
南部平坦	5/12	7/7	7/17	7/28
仙台湾沿岸	5/12	7/7	7/17	7/30
西部丘陵	5/13	7/8	7/18	7/30
三陸沿岸	5/12	7/11	7/21	8/4
山間高冷	5/15	7/14	7/24	8/13

注1) 幼穂形成期及び出穂期は、「DVR法」による予測であり、減数分裂期は幼穂形成期の10日後とした。気温はメッシュ農業気象データ(農研機構)により、当日までの実況値とその後26日間の予報値を使用している。

注2) 移植時期の葉数は県生育調査ほ+作況試験ほ「ひとめぼれ」平均の3.0葉とした。

(2) 水管理

① 基本的な水管理

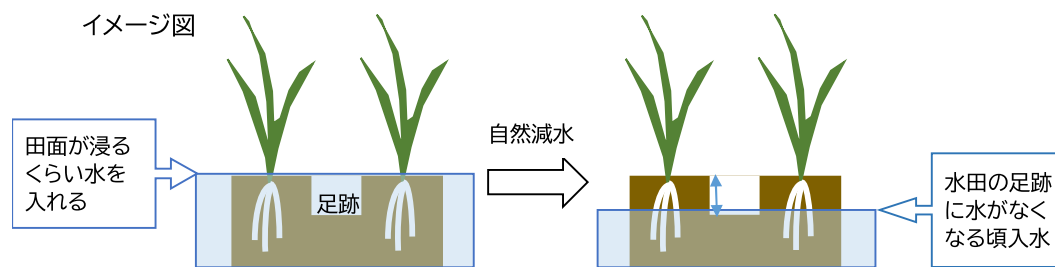
中干し→間断かんがい(穂ばらみ期)→浅水(出穂・開花期)→間断かんがい(登熟期)

- ・中干しは、遅くとも幼穂形成期前に終了します。
- ・根腐れが発生しやすく倒伏の危険性のある水田は、有効茎を確保する頃から落水期まで、飽水管理により、根の健全化と茎の充実を図ってください。

② 高温時の水管理

- ・土壌を常に湿潤状態に保つ飽水管理で維持することによって、湛水管理に比べると乳白粒や胴割粒の発生が軽減できます。
- ・水温が外気より高い場合、かけ流しにより品質低下を助長する恐れがあります。

※飽水管理：水田についた足跡に水がなくなったら入水し、表土が十分湿ったら止水・自然落水する方法。間断かんがいより土壌が酸化的に保たれ、根の活性が高まる。用水不足が懸念されるときの水管理としても有効。

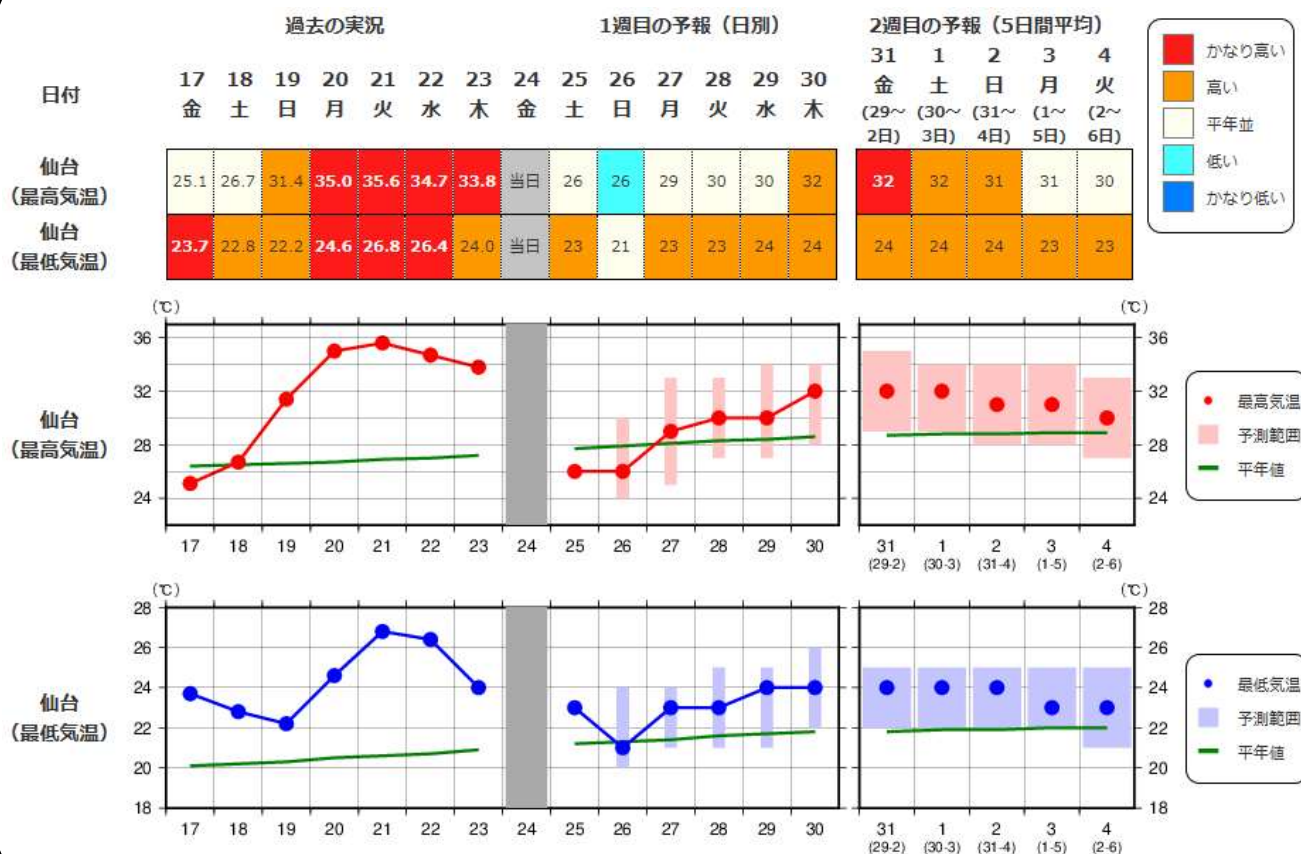


- ・落水は出穂後 30 日以降とし、登熟歩合の向上を図りましょう。

2 週間気象予報（気象庁）では、気温が「高い」と予想される日が多くなっています。

<7月24日 気象庁>

2 週間気温予報



2 週間気温予報は仙台管区気象台のホームページを御覧ください。
<https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/>

(3) 追 肥

水稻の生育は昨年より若干遅れています。草丈や葉色を確認し、適切に追肥しましょう。

表1. 品種・生育ステージごとの生育量及び追肥窒素量の目安

品種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm，出穂20～25日前）				減数分裂期（幼穂長30mm，出穂15日前）			
	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉緑素計値 (群落葉色板値)	追肥窒素量 (kg/10a)
ひとめぼれ	56～59	470～530	38～40 (4.4～4.8)	1.0	66～69	450～500	35～37 (4.0～4.3)	1.0
ササニシキ	62～68	720～760	34～36 (3.8～4.2)	0※ ¹		550～580	32～34 (3.5～3.8)	1.0～1.5
つや姫	70～75	550～580	35～37 (4.0～4.3)	2.0				
だて正夢	64～70	390～460	40～42 (4.8～5.1)	0※ ²	76～82	380～420	37～39 (4.3～4.6)	2.0
金のいぶき	65～70	570～620	33～35 (3.6～4.0)	1.0	83～88	490～540	30～32 (3.2～3.5)	1.0
つきあかり	47～55	370～420	40以上	1.0	75～83	330～350	40以上	2.0

(4) 紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。要防除水準（収量が5%以上の減収を想定して防除する場合）は、「ひとめぼれ」で穂ばらみ期の発病株率が18%です。

(5) 稲こうじ病

穂ばらみ期が低温で、降雨日数が多いと発生が多くなります。銅剤による防除は出穂20～10日前に実施しましょう。

(6) いもち病対策

- ・7月中旬以降は予防粒剤（箱施用剤、水面施用剤）の効果が低下し始めるとともに、追肥で葉色が濃くなり、葉いもちが感染しやすい環境となります。ほ場をよく観察し、葉いもちの発生が確認された場合は、直ちに茎葉散布剤で防除しましょう。特に、穂いもちの重要な伝染源となる上位葉での葉いもちの発生には、十分注意して下さい。
- ・穂いもちの予防粒剤は出穂20～10日前に使用する剤が多いので、生育状況(幼穂長等)の観察や出穂期の予測に基づき、適期に散布して下さい。
- ・粉剤や液剤などの茎葉散布剤による穂いもち防除は、1回目の防除を出穂直前に、2回目を穂揃期に行い、葉いもちの発生が多く、穂いもちが多発する恐れがある場合や出穂期間が長引く場合には、3回目を穂揃期の7～10日後に実施しましょう。
- ・葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM) (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和8年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
7/8	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/9	?	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	●	—	—	●	—	●	●
7/13	—	●	●	●	—	—	—	●	—	—	—	●	—	●	—	—	—	—
7/14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7/15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15～25℃、前5日間の平均気温20～25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
—	好適条件なし	
?	判定不能	

- ・いもち病に感染していれば、葉いもち感染好適条件の出現状況(BLASTAM)の好適条件発生
の10～14日後にほ場で病斑が確認され始めますので、ほ場の観察を行いましょう。
発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除して下さい。

(7) 斑点米カメムシ類の防除

注意報第1号！！

水田周辺の畦畔で斑点米カメムシ類が多発！

適期防除を実施しましょう！

予想発生量：多

発生時期：やや早い（第2世代発生盛期：8月11～15日）

【水田周辺の草刈り】

- ・すでにアカスジカスミカメの第1世代成虫発生盛期を迎えていることから、今後、水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを行うと、成虫を水田内に追い込み斑点米被害を助長します。やむをえず草刈りを行う場合は、草刈り後直ちに水田への薬剤防除を実施して下さい。

【薬剤防除（出穂期以降）】

- ・薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本です。ほ場をよく観察し、遅れないように防除を実施しましょう。
- ・クモヘリカメムシは水田に越冬世代成虫が侵入し、その後1世代を経過します。クモヘリカメムシの発生地域で「つや姫」等の晩生品種を作付けする場合は被害リスクが高くなる可能性があるため、適期防除を実施して下さい。
- ・イヌホタルイが多発しているほ場では、1回目の薬剤散布を「出穂始から穂揃期」に早めることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ被害を軽減できます。

【巨理・名取管内のアカスジカスミカメ発生時期の推定（アメダス（巨理））】

	越冬世代		第1世代		第2世代	
	ふ化	成虫	ふ化	成虫	ふ化	成虫
発生時期	5月19日	6月19日	7月11日	7月26日	8月9日	8月23日

※7月20日までのアメダス（巨理）実測値と7月21日以降はアメダス（巨理）過去5か年（令和3年～令和7年）の平均値を使用。

※予測月日は重久（2004）の報告に基づき算出（卵：発生零点12.1℃，有効積算温度105.7日度，
幼虫：発生零点11.9℃，有効積算温度182.1日度，産卵前期間：発生零点15.1℃，有効積算温度59.5日度）。

【乾田直播栽培】

1 生育状況

7月21日調査では、止葉が抽出し、減数分裂期を終えています。

なお、播種時期やほ場により生育状況は異なりますので、生育状況の確認をお願いします。

NO	品種	調査地点	播種月日	栽培密度 (条/m)	苗立数 (本/m ²)	7月21日調査				
						草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (枚)	葉色 (GM)	幼穂長 (mm)
1	ひとめぼれ	名取市	本年値 3月18日 平年差・比	8.3	237.5	72.2 —	542 —	10.8 —	34.2 —	177.7 —

今年度からの調査のため、平年比なし。

2 今後の管理

(1) 水管理

移植栽培の水管理と同様に管理してください。

出穂期～穂揃期は浅水管理を行いましょう。

(2) いもち病対策

水面施用剤を防除適期に散布してください。

葉いもちが発生しやすい気象条件（低温・少照・多雨等）が出現しているかどうかは、県病害虫防除所のホームページの**葉いもち感染好適条件 の出現状況(BLASTAM)**

(<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/blastam.html>) で確認できます。

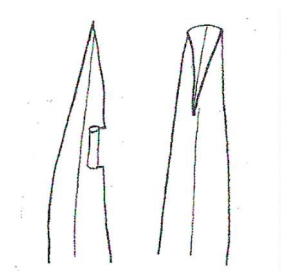
(3) 斑点米カメムシ類防除

注意報第 3 号が発表されました。

斑点米による落等を防止するため、畦畔等の雑草は水稻出穂の 10 日前までに刈り終えてください。斑点米カメムシ類の薬剤防除は移植栽培同様、穂揃期とその 7～10 日後の 2 回防除を基本とします。

(4) イネツトムシ（イチモンジセセリ）

イネツトムシの被害は大きく、防除の対象になるのは 8 月上旬頃に発生する第 2 世代幼虫です。防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

令和8年 夏の熱中症等対策声かけ期間(7月1日から9月30日まで)
スローガン

【いのちをうばう、夏のひとり作業】

農作業中の熱中症に注意しましょう！（農作業中の熱中症による死者数が急増しています）

高温時の農作業や単独作業を避け、20 分おきに休憩・水分補給しましょう。

冷却タオルやファン付きウェアなどの熱中症予防グッズを活用しましょう。

令和 8 年宮城県夏の熱中症等対策声かけ期間リーフレットはこちら

